

株 主 各 位

東京都渋谷区桜丘町31番11号
日本システムウエア株式会社
取締役会長 多 田 修 人

第47回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第47回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、以下のいずれかの方法により議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、平成25年6月25日（火曜日）午後5時までに議決権をご行使くださいますようお願い申し上げます。

【書面（議決権行使書）による議決権行使の場合】

同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、上記の行使期限までに到着するようご返送ください。

【インターネットによる議決権行使の場合】

インターネットにより議決権行使ウェブサイト（<http://www.web54.net>）にアクセスいただき、同封の議決権行使書用紙に表示された「議決権行使コード」および「パスワード」をご利用のうえ、画面の案内にしたがって、議案に対する賛否を入力し、上記の行使期限までに、議決権をご行使ください。

議決権行使ウェブサイトより議決権をご行使いただく場合、その他議決権行使に関する事項は、3頁の「インターネットによる議決権行使のご案内」をご参照ください。

敬 具

記

1. 日 時 平成25年 6 月26日（水曜日）午前10時
2. 場 所 東京都渋谷区渋谷 4 丁目 4 番25号
アイビーホール（青学会館） 地下 2 階 サフランの間
（末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照ください。）
3. 目的事項
報告事項
 - 1 第47期（平成24年 4 月 1 日から平成25年 3 月31日まで）事業報告の内容、連結計算書類の内容ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 - 2 第47期（平成24年 4 月 1 日から平成25年 3 月31日まで）計算書類の内容報告の件決議事項
 - 第 1 号議案 定款一部変更の件
 - 第 2 号議案 取締役 8 名選任の件
 - 第 3 号議案 補欠監査役 1 名選任の件

以 上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

なお、株主総会参考書類ならびに事業報告、計算書類および連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.nsw.co.jp>）に掲載させていただきます。

【インターネットによる議決権行使のご案内】

- 1 インターネットにより議決権を行使される場合は、次の事項をご了承のうえ、行使していただきますようお願い申し上げます。
  - 1) インターネットによる議決権行使は、当社の指定する議決権行使ウェブサイト (<http://www.web54.net>) をご利用いただくことによるのみ可能です。  
なお、携帯電話専用サイトは開設しておりませんので、ご了承ください。
  - 2) インターネットにより複数回、議決権行使された場合は、最後に行なわれたものを有効な議決権行使として取り扱います。
  - 3) インターネットと議決権行使書の双方で議決権を重複して行使された場合、当社へ一番後に到着したものを有効な議決権行使として取り扱います。  
なお、双方が同日に到着した場合は、インターネットによる議決権行使を有効なものとして取り扱います。
  - 4) 議決権行使ウェブサイトをご利用いただくにあたり、プロバイダーへの接続料金および通信事業者への通話料金〔電話料金〕等が必要な場合がありますが、これらの料金は株主様のご負担となります。
- 2 パスワードのお取り扱いについて
  - 1) パスワードは、議決権を行使される方が株主様ご本人であることを確認する手段ですので、大切に保管願います。  
パスワードのお電話等によるご照会にはお答えできません。
  - 2) パスワードは一定回数以上間違えると、ロックされ使用できなくなります。ロックされてしまった場合は、画面の案内に従ってお手続きください。
  - 3) 今回ご案内する『パスワード』は、本総会に関してのみ有効です。  
〔次回総会の際には、新たにパスワードを発行いたします。〕
- 3 議決権行使ウェブサイトをご利用いただくためには、次のシステム環境が必要です。
  - 1) ハードウェアの環境
    - 〔1〕 インターネットにアクセスできる状態であること
    - 〔2〕 解像度800×600〔SVGA〕以上のモニターを使用できる状態であること
  - 2) ソフトウェアの環境  
次のソフトウェアを使用できる状態であること
    - 〔1〕 マイクロソフト社インターネット・エクスプローラー  
(Microsoft® Internet Explorer) Ver. 5.01 Service Pack 2以降
    - 〔2〕 アドビシステムズ社アクロバット・リーダー  
(Adobe® Acrobat® Reader™) Ver. 4.0以降 または (Adobe® Reader®) Ver. 6.0以降

※ アクロバット・リーダーは、当サイト上で株主総会関係資料のご参照、議案内容のご参照をされる場合のみ必要となります。  
〔Internet Explorerは、マイクロソフト社の、Adobe® Acrobat® Reader™および Adobe® Reader®はアドビシステムズ社の、米国およびその他の国における登録商標、商標および製品名です。〕
- 4 インターネットでの議決権行使に関してパソコン等の操作方法がご不明な場合
  - 1) インターネットでの議決権行使に関して、パソコン等の操作方法がご不明な場合は、下記にお問い合わせください。

|                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------|
| 三井住友信託銀行 証券代行ウェブサポート 専用ダイヤル<br>電話 0120-652-031 (フリーダイヤル)<br>〔受付時間 9:00～21:00〕 |
|-------------------------------------------------------------------------------|

- 2) 上記1)以外のご登録の住所・株式数のご照会等は、下記にお問い合わせください。

|                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------|
| 三井住友信託銀行 証券代行事務センター<br>電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)<br>〔受付時間 9:00～17:00 土日休日を除く〕 |
|-------------------------------------------------------------------------------|

## 事業報告

(自 平成24年4月1日)  
(至 平成25年3月31日)

### 1. 当社グループの現況に関する事項

#### (1) 事業の経過およびその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、復興関連需要が本格化し、政権交代による期待感から円安・株高が進行する等、年度末にかけて景況感に改善の動きが見られました。しかしながら、長期にわたるデフレ、欧州経済の減速、新興経済地域の成長鈍化等の影響により、依然として先行きは不透明な状況で推移しました。

情報サービス産業界におきましては、スマートフォンやタブレットの爆発的な普及とクラウドサービスの利用拡大などITの利用形態の変化に伴い、通信インフラの開発とそれらに関連するサービスの拡充が進みました。一方、顧客企業のグローバル化による製造の海外シフトなどにより、国内市場の競争は一層厳しさを増しています。

このような状況の下、当社グループは、「開発集団からサービス提供集団へ」「高収益企業グループへ」「新たな価値を創出する企業グループへ」をビジョンに掲げた中期経営計画の最終年度として、利益確保および新たな収益源の確立に向けた施策にグループ一丸となって取り組んでまいりました。具体的には、既存顧客の深耕と新規顧客の開拓により受注確保に努めるとともに、プロジェクトマネジメント強化、生産性向上などの施策を引き続き推進してまいりました。

これらの結果、当連結会計年度の業績につきましては、受注高は261億57百万円（前年同期比3.3%増）、売上高は260億7百万円（同6.2%増）、営業利益は11億24百万円（同11.1%増）、経常利益は11億64百万円（同14.3%増）となりました。なお、当社が保有する山梨ITセンターの未使用地の減損損失2億53百万円、および早期退職優遇制度に基づく特別退職金76百万円をそれぞれ特別損失として計上した結果、当期純利益は3億90百万円（同76.7%増）となりました。

当連結会計年度のセグメント別概況は、次のとおりであります。

#### <ITソリューション>

当セグメントでは、各種アプリケーションソフトの受託開発、ならびに顧客の経営課題を解決するソリューション事業としてコンサルティングからシステム開発、導入、運用、保守までを一貫して行なうシステムインテグレーションサービスを提供しております。

また、クラウドサービスをはじめ、情報システムの運用管理、アウトソーシング、ヘルプデスク、ネットワークの構築・保守など、各種のサービスも展開しております。

当連結会計年度は、ソリューション事業においては金融・保険業向けの案件が好調を維持したほか、製造業向けの案件が前期の落ち込みからもち直すなどして、運用系事業の不振をカバーしました。このような状況下、プロセス改善による不採算案件の解消や生産性向上などに努める一方で、パッケージソフト開発などの先行投資を行なった結果、受注高は166億95百万円（前年同期比3.4%増）、売上高は166億94百万円（同6.8%増）、営業利益は5億66百万円（同3.8%減）となりました。

#### <プロダクトソリューション>

当セグメントでは、通信系・制御系の組込みソフトウェア、ファームウェア、ミドルウェアの設計・開発、ならびに通信・画像処理などのボードやシステムLSIなどの各種ハードウェアの設計・開発を行なっております。

また、ソフトウェアからハードウェアにわたるエンベデッドトータルソリューションの提供に加え、モバイルデバイス向けなどの各種アプリケーションソフトによるサービス提供も行なっております。

当連結会計年度は、組込みソフトウェア開発事業においては、通信インフラ向けの開発は前期からの好調を維持し堅調に推移しました。また、デバイス開発事業においては、業界再編などの影響を受けて需要の減少が見られました。このような状況下、案件確保に注力するとともに、プロジェクトマネジメント強化、生産性向上などに努めた結果、受注高は94億62百万円（前年同期比3.2%増）、売上高は93億13百万円（同5.2%増）、営業利益は5億57百万円（同31.7%増）となりました。

報告セグメント別の売上高、構成比率は次のとおりであります。

(単位：百万円、%)

| 報告セグメント別     | 第 46 期 |       |       | 第 47 期<br>(当連結会計年度) |       |       |
|--------------|--------|-------|-------|---------------------|-------|-------|
|              | 売上高    | 前期比   | 構成比率  | 売上高                 | 前期比   | 構成比率  |
| IT ソリューション   | 15,629 | 96.7  | 63.8  | 16,694              | 106.8 | 64.2  |
| プロダクトソリューション | 8,854  | 101.2 | 36.2  | 9,313               | 105.2 | 35.8  |
| 合 計          | 24,484 | 98.3  | 100.0 | 26,007              | 106.2 | 100.0 |

(2) 設備投資の状況

特記事項はありません。

(3) 資金調達の状況

当連結会計年度におきましては、経常的な運転資金等の調達以外は行なっておりません。

(4) 事業の譲渡、吸収分割または新設分割の状況

特記事項はありません。

(5) 他の会社の事業の譲受けの状況

特記事項はありません。

(6) 吸収合併または吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

特記事項はありません。

(7) 他の会社の株式その他の持分または新株予約権等の取得または処分の状況

特記事項はありません。

## (8) 対処すべき課題

今後の国内景気につきましては、世界情勢に不透明感が残る中、政府の経済政策に基づく金融緩和等による成長への期待感が高まり、一部で改善の兆しが見られます。

情報サービス産業界におきましては、クラウドサービスやモバイルを活用したビジネス、エネルギーや社会インフラ関連など、新たな分野やサービスへの事業展開が本格化しております。その一方で、海外事業者の参入に加えて開発の海外シフトなどによる製品・サービスの単価下落が進み、今後も厳しい状況が続くものと思われまます。

このような状況を踏まえ、当社グループは、クラウドサービスのさらなる拡充やモバイル技術を用いたサービス分野の強化を推進いたします。加えて、環境変化に即応し新たな収益の柱となるビジネスを創出するため、戦略的投資によるコア技術基盤の構築とエネルギーや社会インフラなど新市場における事業拡大を目指してまいります。

また、既存顧客との関係強化による安定的な受注の確保に努めるとともに、新規顧客の開拓にも一層注力いたします。そのため、営業部門と開発部門の連携を図り、顧客の真のニーズを的確に捉えた質の高いトータルソリューションの提案を実践してまいります。

加えて、不採算案件の撲滅に向け、受注・見積審議会による案件受注前のチェック、ならびにPMO（プロジェクト・マネジメント・オフィス）による業務着手後における適時管理を継続し、案件の採算性悪化を未然に防止してまいります。

さらに、組織マネジメントの強化により稼働率の改善などに努めるとともに、管理部門における業務とリソースの最適化によりグループシナジーを強化してまいります。

そして、「コンプライアンスの再徹底」「内部統制システムの強化」「内部監査の強化」などを確実に実行し、リスク管理を引き続き強化・徹底していく所存です。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

## (9) 財産および損益の状況の推移

### ① 当社グループの財産および損益の状況の推移

| 区 分                            | 第 44 期    | 第 45 期    | 第 46 期    | 第 47 期<br>(当連結会計年度) |
|--------------------------------|-----------|-----------|-----------|---------------------|
| 売 上 高                          | 24,849百万円 | 24,906百万円 | 24,484百万円 | 26,007百万円           |
| 営 業 利 益                        | 148百万円    | 825百万円    | 1,012百万円  | 1,124百万円            |
| 経 常 利 益                        | 96百万円     | 819百万円    | 1,018百万円  | 1,164百万円            |
| 当期純利益または<br>当期純損失(△)           | △381百万円   | 565百万円    | 221百万円    | 390百万円              |
| 1株当たり当期純利益または<br>1株当たり当期純損失(△) | △25円63銭   | 37円93銭    | 14円84銭    | 26円22銭              |
| 総 資 産                          | 20,171百万円 | 19,898百万円 | 19,576百万円 | 19,369百万円           |
| 純 資 産                          | 11,346百万円 | 11,722百万円 | 11,729百万円 | 11,928百万円           |
| 1株当たり純資産額                      | 760円02銭   | 785円87銭   | 786円01銭   | 798円72銭             |

(注) 1株当たり当期純利益は、当期純利益を期中平均発行済株式数で除して算出しております。

### ② 当社の財産および損益の状況の推移

| 区 分                            | 第 44 期    | 第 45 期    | 第 46 期    | 第 47 期<br>(当期) |
|--------------------------------|-----------|-----------|-----------|----------------|
| 売 上 高                          | 23,881百万円 | 24,102百万円 | 23,622百万円 | 25,092百万円      |
| 営 業 利 益                        | 76百万円     | 737百万円    | 909百万円    | 1,047百万円       |
| 経 常 利 益                        | 114百万円    | 797百万円    | 979百万円    | 1,155百万円       |
| 当期純利益または<br>当期純損失(△)           | △243百万円   | 581百万円    | 231百万円    | 410百万円         |
| 1株当たり当期純利益または<br>1株当たり当期純損失(△) | △16円37銭   | 39円06銭    | 15円55銭    | 27円54銭         |
| 総 資 産                          | 19,798百万円 | 19,474百万円 | 19,126百万円 | 18,923百万円      |
| 純 資 産                          | 10,994百万円 | 11,398百万円 | 11,411百万円 | 11,616百万円      |
| 1株当たり純資産額                      | 737円91銭   | 765円03銭   | 765円90銭   | 779円66銭        |

(注) 1株当たり当期純利益は、当期純利益を期中平均発行済株式数で除して算出しております。

## (10) 重要な親会社および子会社の状況

- ① 親会社の状況  
該当事項はありません。
- ② 重要な子会社の状況

| 会社名              | 資本金      | 議決権比率            | 主な事業内容                     |
|------------------|----------|------------------|----------------------------|
| 日本テクノウェイブ株式会社    | 200百万円   | 100.0%           | ITソリューション、<br>プロダクトソリューション |
| エヌエスダブリュ販売株式会社   | 30百万円    | 43.3%<br>[33.3%] | ITソリューション                  |
| N S W ウィズ株式会社    | 30百万円    | 100.0%           | 一般事務に関する業務代行、<br>支援サービス    |
| 京石刻恩信息技术(北京)有限公司 | 200万人民币元 | 100.0%           | プロダクトソリューション               |

(注) 議決権比率の〔 〕内は、緊密な者等の所有割合で外数であります。

## (11) 主要な事業内容

当社グループは、「ITソリューション」「プロダクトソリューション」の2分野の事業を主たる業務としております。

## (12) 主要な拠点等

- ① 当社  
本社 東京都渋谷区桜丘町31番11号  
渋谷ITコア 東京都渋谷区  
渋谷事業所 東京都渋谷区  
渋谷CIビル 東京都渋谷区  
山梨ITセンター 山梨県笛吹市  
大阪事業所 大阪府大阪市  
福岡事業所 福岡県福岡市  
その他事業所 名古屋、広島

### ② 連結子会社

|                  |    |        |
|------------------|----|--------|
| 日本テクノウェイブ株式会社    | 本社 | 東京都渋谷区 |
| エヌエスダブリュ販売株式会社   | 本社 | 東京都渋谷区 |
| N S W ウィズ株式会社    | 本社 | 東京都渋谷区 |
| 京石刻恩信息技术(北京)有限公司 | 本社 | 中国     |

### (13) 使用人の状況

| 区 分 | 従 業 員 数 | 前連結会計年度比増減 |
|-----|---------|------------|
| 男 性 | 1,674   | △35        |
| 女 性 | 238     | 12         |
| 合 計 | 1,912   | △23        |

(注) 従業員数は、嘱託52名を含んだ就業人員数であります。

### (14) 主要な借入先

| 借 入 先                   | 借 入 額   |
|-------------------------|---------|
| 株 式 会 社 三 菱 東 京 UFJ 銀 行 | 700,000 |
| 株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行     | 400,000 |
| 株 式 会 社 み ず ほ 銀 行       | 400,000 |
| 三 井 住 友 信 託 銀 行 株 式 会 社 | 400,000 |

### (15) その他当社グループの現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2. 会社の株式に関する事項

- (1) 発行可能株式総数 45,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 14,899,808株（自己株式192株を除く。）
- (3) 株主数 4,757名
- (4) 大株主（上位10名）

| 株 主 名                                                             | 持 株 数               | 持 株 比 率 |
|-------------------------------------------------------------------|---------------------|---------|
| 株 式 会 社 タ ダ ・ コ ー ポ レ ー シ ョ ン                                     | 5,000 <sup>千株</sup> | 33.55%  |
| 多 田 修 人                                                           | 2,279               | 15.30   |
| 日 本 シ ス テ ム ウ ェ ア 従 業 員 持 株 会                                     | 536                 | 3.60    |
| 多 田 尚 二                                                           | 310                 | 2.08    |
| 多 田 直 樹                                                           | 300                 | 2.01    |
| 日 本 電 気 株 式 会 社                                                   | 294                 | 1.97    |
| 日 本 マ ス タ ー ト ラ ス ト 信 託 銀 行 株 式 会 社 ( 信 託 口 )                     | 224                 | 1.50    |
| C B N Y D F A I N T L S M A L L C A P V A L U E P O R T F O L I O | 198                 | 1.33    |
| 日 本 生 命 保 険 相 互 会 社                                               | 174                 | 1.17    |
| 多 田 順 子                                                           | 166                 | 1.11    |

(注) 持株比率は、自己株式（192株）を控除して計算しております。

### (5) その他株式に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 3. 会社の新株予約権等に関する事項

- (1) 当事業年度末日における当社役員が有する新株予約権等の状況  
該当事項はありません。
- (2) 当事業年度中に当社使用人等に対して交付した新株予約権等の状況  
該当事項はありません。
- (3) その他新株予約権等に関する重要な事項  
該当事項はありません。

#### 4. 会社役員に関する事項

##### (1) 取締役および監査役の氏名等（平成25年3月31日現在）

| 氏名    | 地位および担当                              | 重要な兼職の状況                                                                  |
|-------|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 多田修人  | 取締役会長<br>(代表取締役)                     | (株)ナカヤ 代表取締役社長                                                            |
| 青木正   | 取締役<br>執行役員社長<br>(代表取締役)             |                                                                           |
| 多田尚二  | 取締役<br>執行役員副社長<br>(営業兼戦略室担当)         | エヌエスダブリュ販売(株) 取締役会長<br>(株)ナカヤ 専務取締役<br>(株)タダ・コーポレーション 代表取締役社長             |
| 桑原公生  | 取締役<br>執行役員専務<br>(経理部長、総務部担当)        |                                                                           |
| 青山英治  | 取締役<br>執行役員常務<br>(企画室長)              |                                                                           |
| 大田亨   | 取締役<br>執行役員常務<br>(プロダクトソリューション事業本部長) | 京石刻恩信息技术(北京)有限公司 董事長                                                      |
| 飯郷直行  | 取締役<br>執行役員常務<br>(ITソリューション事業本部長)    |                                                                           |
| 小谷野幹雄 | 取締役                                  | 小谷野公認会計士事務所 公認会計士<br>ゼビオ(株) 社外監査役<br>(株)ヴィクトリア 社外監査役<br>積水ハウス・SI投資法人 監督役員 |
| 望月武   | 常勤監査役                                |                                                                           |
| 木村武   | 監査役                                  | 税理士法人KMCパートナーズ 税理士                                                        |
| 熊谷信太郎 | 監査役                                  | 熊谷総合法律事務所 弁護士<br>(株)ひらまつ 社外取締役                                            |

- (注) 1. 取締役飯郷直行氏は、平成24年6月27日開催の第46回定時株主総会において、取締役に新たに選任され、就任いたしました。
2. 監査役熊谷信太郎氏は、平成24年6月27日開催の第46回定時株主総会において、監査役に新たに選任され、就任いたしました。
3. 監査役稲村真由美氏は、平成24年6月27日開催の第46回定時株主総会終結の時をもって、任期満了により退任いたしました。
4. 取締役小谷野幹雄氏は、社外取締役であります。
5. 監査役木村武氏および熊谷信太郎氏は、社外監査役であり、東京証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員であります。
6. 監査役木村武氏は、税理士の資格を有しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
7. 監査役熊谷信太郎氏は、弁護士の資格を有しており、弁護士実務を通じて培われた豊富な経験と高い見識を有するものであります。

8. 事業年度の末日後の取締役の異動  
平成25年4月1日付で以下のとおり異動を行ないました。

| 氏名   | 地位および担当                   |                                |
|------|---------------------------|--------------------------------|
|      | 変更前                       | 変更後                            |
| 多田修人 | 代表取締役会長                   | 取締役会長                          |
| 多田尚二 | 取締役執行役員副社長<br>(営業兼戦略室担当)  | 代表取締役執行役員社長                    |
| 桑原公生 | 取締役執行役員専務<br>(経理部長、総務部担当) | 代表取締役執行役員専務<br>(経理部、総務部担当)     |
| 青木正  | 代表取締役執行役員社長               | 取締役相談役                         |
| 青山英治 | 取締役執行役員常務<br>(企画室長)       | 取締役執行役員専務<br>(事業戦略室、企画室、人事部担当) |

9. 当社は執行役員制度を導入しております。平成25年4月1日現在の各執行役員の地位、氏名および担当は次のとおりであります。(執行役員を兼務する取締役は除く)

| 地位     | 氏名   | 担当                                               |
|--------|------|--------------------------------------------------|
| 執行役員常務 | 小関誠一 | プロダクトソリューション事業本部<br>副事業本部長兼営業統括部長                |
| 執行役員   | 小山文雄 | ITソリューション事業本部<br>副事業本部長<br>兼ビジネスソリューション事業部長      |
| 執行役員   | 中村武人 | 総務部長                                             |
| 執行役員   | 衛藤純二 | ITソリューション事業本部<br>営業統括部長                          |
| 執行役員   | 西郷正宏 | 企画室長                                             |
| 執行役員   | 板山可成 | プロダクトソリューション事業本部<br>副事業本部長<br>兼エンベデッドソリューション事業部長 |

## (2) 当事業年度に係る取締役および監査役の報酬等の額

| 区分  | 支給人員 | 報酬等の額     | 摘要            |
|-----|------|-----------|---------------|
| 取締役 | 8名   | 141,480千円 | 年額200,000千円以内 |
| 監査役 | 4名   | 20,700千円  | 年額40,000千円以内  |
| 計   | 12名  | 162,180千円 |               |

- (注) 1. 摘要欄には、株主総会で承認を受けた報酬限度額を記載しております。  
2. 平成25年3月31日現在の取締役は8名、監査役は3名であります。上記の員数と相違しておりますのは、平成24年6月27日開催の第46回定時株主総会終結の時をもって退任した監査役1名が含まれていることによります。  
3. 上記支給額のほか、平成19年6月28日開催の定時株主総会の決議に基づき、役員退職慰労金制度廃止に伴う打ち切り支給として、当事業年度中に退任した社外監査役1名に対して925千円を支給しております。

### (3) 社外役員に関する事項

#### ① 重要な兼職先である法人等と当社との関係

- ・社外取締役小谷野幹雄氏は、小谷野公認会計士事務所の代表、ゼビオ株式会社の社外監査役、ゼビオ株式会社の子会社株式会社ヴィクトリアの社外監査役および積水ハウス・SI投資法人の監督役員を兼務しております。当社と重要な兼職先との間には、特別な関係はありません。
- ・社外監査役木村武氏は、税理士法人KMCパートナーズの代表を兼務しております。当社と重要な兼職先との間には、特別な関係はありません。
- ・社外監査役熊谷信太郎氏は、熊谷綜合法律事務所の所長および株式会社ひらまつの社外取締役を兼務しております。当社と重要な兼職先との間には、特別な関係はありません。

#### ② 当該事業年度における主な活動状況

| 区 分   | 氏 名     | 主 な 活 動 状 況                                                                                                |
|-------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 社外取締役 | 小谷野 幹 雄 | 当事業年度開催の取締役会には、7回のうち7回に出席し、毎回報告事項や決議事項について適宜質問をするとともに、必要に応じ実務経験および専門家の立場から意見を述べております。                      |
| 社外監査役 | 木 村 武   | 当事業年度開催の取締役会には、7回のうち6回に出席し、同じく監査役会7回のうち6回出席し、社外監査役として、毎回報告事項や決議事項について適宜質問をするとともに、必要に応じ専門家の立場から意見を述べております。  |
| 社外監査役 | 熊 谷 信太郎 | 平成24年6月の就任後、取締役会5回のうち4回に出席し、同じく監査役会5回のうち4回出席し、社外監査役として、毎回報告事項や決議事項について適宜質問をするとともに、必要に応じ専門家の立場から意見を述べております。 |

#### ③ 責任限定契約の内容の概要

当社は社外役員全員と会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償の限度額は、法令が規定する最低責任限度額であります。

#### ④ 社外役員の報酬等の額

|            | 支 給 人 員 | 報 酬 等 の 額 | 子会社からの役員報酬等 |
|------------|---------|-----------|-------------|
| 社外役員の報酬等の額 | 4名      | 16,800千円  | —           |

(注) 平成25年3月31日現在の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。上記の社外役員の員数と相違しておりますのは、平成24年6月27日開催の第46回定時株主総会終結の時をもって退任した社外監査役1名が含まれていることによります。

## 5. 会計監査人の状況

### (1) 会計監査人の名称

明和監査法人

### (2) 報酬等の額

① 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額 22,000千円

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査業務の報酬等と金融商品取引法に基づく監査業務の報酬等を区分しておらず、実質的にも区分できないため、上記金額にはこれらの合計額を記載しております。

② 当社および当社子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 22,000千円

### (3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

### (4) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると判断した場合、会計監査人の解任を決定し、その旨および解任の理由を解任後最初に招集される株主総会で報告いたします。また、取締役会もしくは監査役会が、そのほか会計監査人であることにつき支障があると判断した場合、会社法第344条の規定により「会計監査人の解任」または「会計監査人の不再任」の議案を株主総会に提出いたします。

## 6. 会社の体制および方針

### (1) 業務の適正を確保する体制

当社は、取締役会において決定した会社法第362条に定める会社の業務の適正を確保するための体制の整備に関する基本方針に基づき、内部統制システムを整備し運用しております。当期につきましても内部統制システムの整備・運用状況について評価を行ない、本基本方針に基づき内部統制システムが適切に整備され運用されていることを確認しました。内部統制に係わる基本方針の概要は以下のとおりであります。

- ① 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
  - ・コンプライアンス体制の基礎として、取締役、執行役員および使用人の行動規範となる倫理憲章を定め、取締役、執行役員および使用人全員に周知徹底し、かつ遵守してまいります。
  - ・社長直属の機関として、常勤取締役、常勤監査役、事業本部長および本社室本部長により構成されるコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス体制の整備および維持（以下「コンプライアンス業務」という。）を図ります。コンプライアンス委員会は、必要あるときは適宜、社外取締役、社外監査役、弁護士、公認会計士および税理士等に相談を行ないます。
  - ・コンプライアンス業務を担当する部門として、総務部長を長とするコンプライアンス室を設置し、コンプライアンス委員会の監督の下、社内規則およびガイドラインの策定、教育訓練の実施、ならびに社内通報・報告体制の整備、その他コンプライアンス業務を行ないます。コンプライアンス室は、コンプライアンス業務について、定期的にコンプライアンス委員会に報告します。
  - ・コンプライアンスの実行を監査するための内部監査部門として執行部門から独立した内部監査室は、コンプライアンスの状況を監査し、コンプライアンス委員会に報告します。
  - ・取締役、監査役、執行役員、使用人および内部監査室は、法令違反その他コンプライアンスに関する重大な事実を発見した場合には、直ちにコンプライアンス委員会に報告します。
  - ・監査役はコンプライアンス体制に問題があると認めるときは、コンプライアンス委員会に対して改善を求めます。この場合、コンプライアンス委員会は、改善の必要があると認めた場合は、速やかにコンプライアンス室に対してコンプライアンス体制の改善策の策定を指示します。
  - ・市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力との関係を一切遮断することを目的として、反社会的勢力への対応を所管する部門を総務部と定めるとともに、事案発生時の報告および対応に係る規程等の整備を行ない、反社会的勢力には警察等関連機関と連携し毅然とした態度で対応いたします。

- ② 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制
- ・取締役の職務執行に係る情報については、文書管理規程に基づき、網羅的にかつ検索性の高い状態で保存および管理し、取締役および監査役は、文書管理規程により、これらを常時閲覧できるものとしております。
- ③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- ・リスク管理を統括する機関として経営会議、リスクマネジメント委員会、コンプライアンス委員会を設置し、リスク管理のための体制を整備しております。
  - ・経営リスク（ビジネスリスク）、法令リスク（コンプライアンスリスク）、情報セキュリティリスク（ITリスク）および災害リスク（ハザードリスク）の適正な管理のため、これらのリスク毎に管理責任者を定めるとともに、取締役会規程、執行役員規程、経営会議規程、リスクマネジメント委員会規程、コンプライアンス委員会規程、情報システム管理規程および防災管理規程を定め、これらの規程に従ったリスク管理体制を構築しております。
  - ・不測の事態が発生した場合には、社長を本部長とする対策本部を設置し、同本部が中心となって迅速に対応し、リスクおよび損害の拡大を防止しこれを最小限に止める体制を整えております。
- ④ 取締役の職務の執行が効率的に行なわれることを確保するための体制
- ・経営方針および経営戦略に関わる重要事項のうち、取締役会で決議すべきものは、取締役会規程に明定し、係る事項を審議・決定します。また、必要に応じて臨時の取締役会を開催します。さらに、取締役会規程に定めたものに準ずる重要事項を審議・決定するために、経営会議を随時開催します。
  - ・取締役会または経営会議の決定に基づく業務執行については、取締役会規程、執行役員規程、組織規程、職務権限規程および業務分掌規程において、業務執行部門における責任者および責任内容ならびに執行手続の詳細を定めております。
- ⑤ 当社グループにおける業務の適正を確保するための体制
- ・倫理憲章は、関係会社管理規程に定める会社（以下「関係会社」という。）にも適用いたします。
  - ・当社は、関係会社管理規程に従い、決裁・報告制度を運用し、関係会社の経営を適正に管理するものとし、必要に応じて関係会社の経営のモニタリングを行ないます。取締役、監査役および内部監査室は、関係会社の法令違反その他コンプライアンスに関する重大な事実を発見した場合には、直ちにコンプライアンス委員会に報告します。

- ・関係会社は、当社からの経営管理、経営指導内容が法令に違反し、その他コンプライアンス上問題があると認めた場合には、コンプライアンス委員会に報告します。
- ⑥ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における使用人に関する事項および当該使用人の取締役からの独立性に関する事項
- ・監査役の求めがあったときは、監査役の職務を補助すべき使用人として、使用人から監査役補助者を任命します。
  - ・監査役は、監査役補助者の人事異動・人事評価等について、事前に人事部長より報告を受けるとともに、必要ある場合は、理由を付して人事異動・人事評価等につき変更を人事部長に申し入れることができることとし、人事部長は、監査役の意見を尊重するものとします。
  - ・監査役補助者は業務の執行に係る役職を兼務しないものとします。
- ⑦ 取締役および使用人の監査役への報告、その他の監査役への報告に関する体制
- ・取締役、執行役員および使用人は、当社または関係会社に著しい損害を及ぼし、もしくは当社または関係会社の信用を著しく失墜させるおそれがある事態の発生、内部管理体制の重大な欠陥および法令違反等の不正行為等を認めた場合は、書面もしくは口頭にて遅滞なく監査役に直接報告します。
  - ・内部監査室は、少なくとも1ヶ月に1度は、監査状況について、監査役に報告します。
  - ・監査役は必要に応じ、いつでも取締役、執行役員または使用人に報告を求めることができ、取締役、執行役員または使用人は、速やかに求められた事項を報告しなければならない仕組みを構築しております。
- ⑧ 監査役は監査が実効的に行なわれることを確保するための体制
- ・監査役は、重要な意思決定の過程および業務の執行状況を把握するために、取締役会のほか、経営会議、部門長報告会等の会議に出席するとともに、業務執行に関する文書を閲覧し、必要に応じて取締役、執行役員または使用人に報告を求めることができます。
  - ・監査役は、必要があると認めるときは、コンプライアンス委員会またはコンプライアンス室に対し、改善策の策定を求め、内部監査室に対し、監査の実施状況の報告、および追加監査の実施を求めることができます。
  - ・監査役は、内部監査室に対して、必要に応じて監査業務への協力を求めることができます。
  - ・監査役は、代表取締役、コンプライアンス委員会委員長および監査法人と、それぞれ定期的に意見交換を行ないます。

## (2) 株式会社の支配に関する基本方針

該当事項はありません。

## (3) 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要政策の一つとして位置付け、安定的かつ継続的な配当を実施していくことを基本的な方針としております。

剰余金の配当は、内部留保資金の充実を図りながら、当該期の利益水準、財政状態、配当性向、将来の業績動向等を総合的に勘案した上で決定することとしております。

また、内部留保資金につきましては、将来の事業拡大ならびに経営基盤強化に備え、競争力の維持向上に努めていく所存です。

上記の基本方針を踏まえて、当期の期末配当金につきましては、1株につき7円50銭とすることを決定いたしました。また、中間配当金として1株7円50銭をお支払いしておりますので、年間配当金は1株につき15円となります。

なお、当社は、取締役会の決議により剰余金の配当を決定できる旨を定款に定めております。また、当社は、毎年3月31日および9月30日を基準日とした年2回の配当を継続する予定でおります。

---

(注) 本事業報告中の記載金額および株式数は、表示単位未満を切り捨てて記載しております。

## 連結貸借対照表

(平成25年3月31日現在)

(単位：千円)

| 資 産 の 部         |                   | 負 債 の 部          |                   |
|-----------------|-------------------|------------------|-------------------|
| 科 目             | 金 額               | 科 目              | 金 額               |
| <b>流動資産</b>     | <b>9,976,119</b>  | <b>流動負債</b>      | <b>5,725,360</b>  |
| 現金及び預金          | 3,034,329         | 買掛金              | 1,432,853         |
| 受取手形及び売掛金       | 5,321,249         | 短期借入金            | 1,906,940         |
| 商 品             | 147,607           | リース債務            | 109,339           |
| 仕 掛 品           | 649,769           | 未払法人税等           | 281,646           |
| 貯 蔵 品           | 2,619             | 未払消費税等           | 167,915           |
| 繰延税金資産          | 441,672           | 賞与引当金            | 672,718           |
| そ の 他           | 402,448           | 工事損失引当金          | 700               |
| 貸倒引当金           | △23,577           | 事業整理損失引当金        | 209,930           |
| <b>固定資産</b>     | <b>9,393,700</b>  | そ の 他            | 943,316           |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>7,633,422</b>  | <b>固定負債</b>      | <b>1,715,616</b>  |
| 建物及び構築物         | 3,249,459         | リース債務            | 105,608           |
| 土 地             | 3,861,051         | 退職給付引当金          | 1,271,261         |
| リース資産           | 1,389             | 役員退職慰労引当金        | 313,241           |
| そ の 他           | 521,522           | 環境対策引当金          | 13,497            |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>87,775</b>     | 資産除去債務           | 12,007            |
| リース資産           | 3,331             | <b>負債合計</b>      | <b>7,440,977</b>  |
| そ の 他           | 84,443            | <b>純資産の部</b>     |                   |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>1,672,501</b>  | <b>株主資本</b>      | <b>11,881,003</b> |
| 投資有価証券          | 93,826            | 資本金              | 5,500,000         |
| 長期未収入金          | 14,497            | 資本剰余金            | 86,080            |
| 敷金及び保証金         | 607,060           | 利益剰余金            | 6,295,031         |
| 保険積立金           | 271,002           | 自己株式             | △107              |
| 繰延税金資産          | 489,948           | その他の包括利益累計額      | 19,827            |
| そ の 他           | 216,429           | その他有価証券評価差額金     | 18,116            |
| 貸倒引当金           | △20,262           | 為替換算調整勘定         | 1,710             |
|                 |                   | 少数株主持分           | 28,010            |
|                 |                   | <b>純資産合計</b>     | <b>11,928,842</b> |
| <b>資産合計</b>     | <b>19,369,819</b> | <b>負債及び純資産合計</b> | <b>19,369,819</b> |

(注) 記載金額は表示単位未満を切り捨てて記載しております。

## 連 結 損 益 計 算 書

(自 平成24年 4月 1日)  
(至 平成25年 3月 31日)

(単位：千円)

| 科 目                         | 金 額        |
|-----------------------------|------------|
| 売 上 高 価                     | 26,007,344 |
| 売 上 原 価                     | 21,776,494 |
| 売 上 総 利 益                   | 4,230,849  |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費         | 3,106,006  |
| 営 業 利 益                     | 1,124,843  |
| 営 業 外 収 益                   |            |
| 受 取 利 息                     | 69         |
| 受 取 配 当 金                   | 4,543      |
| そ の 他                       | 59,135     |
| 営 業 外 費 用                   |            |
| 支 払 利 息                     | 19,774     |
| そ の 他                       | 4,496      |
| 経 常 利 益                     | 1,164,321  |
| 特 別 損 失                     |            |
| 有 形 固 定 資 産 除 却 損           | 606        |
| 特 別 退 職 金                   | 76,045     |
| 減 損 損 失                     | 253,000    |
| 税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益       | 834,670    |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税       | 430,168    |
| 法 人 税 等 調 整 額               | 3,683      |
| 少 数 株 主 損 益 調 整 前 当 期 純 利 益 | 400,818    |
| 少 数 株 主 利 益                 | 10,133     |
| 当 期 純 利 益                   | 390,684    |

(注) 記載金額は表示単位未満を切り捨てて記載しております。

## 連結株主資本等変動計算書

(自 平成24年4月1日  
至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

|               | 株 主 資 本   |            |           |         |            |
|---------------|-----------|------------|-----------|---------|------------|
|               | 資 本 金     | 資本剰余金      | 利益剰余金     | 自 己 株 式 | 株主資本合計     |
| 当 期 首 残 高     | 2,538,300 | 3,047,780  | 6,127,844 | △107    | 11,713,816 |
| 当 期 変 動 額     |           |            |           |         |            |
| 資本金への振替       | 2,961,700 | △2,961,700 |           |         | —          |
| 剰余金の配当        |           |            | △223,497  |         | △223,497   |
| 当期純利益         |           |            | 390,684   |         | 390,684    |
| 当 期 変 動 額 合 計 | 2,961,700 | △2,961,700 | 167,187   | —       | 167,187    |
| 当 期 末 残 高     | 5,500,000 | 86,080     | 6,295,031 | △107    | 11,881,003 |

(単位：千円)

|                         | その他の包括利益累計額                   |                    |                                 | 少数株主持分 | 純資産合計      |
|-------------------------|-------------------------------|--------------------|---------------------------------|--------|------------|
|                         | そ の 他<br>有 価 証 券<br>評 価 差 額 金 | 為 替 換 算<br>調 整 勘 定 | そ の 他 の<br>包 括 利 益<br>累 計 額 合 計 |        |            |
| 当 期 首 残 高               | △32                           | △2,322             | △2,355                          | 17,876 | 11,729,337 |
| 当 期 変 動 額               |                               |                    |                                 |        |            |
| 剰余金の配当                  |                               |                    |                                 |        | △223,497   |
| 当期純利益                   |                               |                    |                                 |        | 390,684    |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額) | 18,149                        | 4,033              | 22,182                          | 10,133 | 32,316     |
| 当 期 変 動 額 合 計           | 18,149                        | 4,033              | 22,182                          | 10,133 | 199,504    |
| 当 期 末 残 高               | 18,116                        | 1,710              | 19,827                          | 28,010 | 11,928,842 |

(注) 記載金額は表示単位未満を切り捨てて記載しております。

## 連 結 注 記 表

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等)

1. 連結の範囲に関する事項
  - (1) 連結子会社の数 4社
  - (2) 連結子会社の名称
    - 日本テクノウェイブ株式会社
    - エヌエスダブリュ販売株式会社
    - NSWウィズ株式会社
    - 京石刻恩信息技术(北京)有限公司
2. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、京石刻恩信息技术(北京)有限公司の決算日は12月31日であります。連結計算書類の作成にあたっては、同日現在の計算書類を使用し、連結決算日までの期間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行なっております。なお、その他の連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。
3. 会計処理基準に関する事項
  - (1) 重要な資産の評価基準および評価方法
    - ① 有価証券
      - その他有価証券
        - イ. 時価のあるもの
          - 決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
        - ロ. 時価のないもの
          - 移動平均法に基づく原価法
    - ② たな卸資産
      - イ. 商品及び仕掛品
        - 個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)
      - ロ. 貯蔵品
        - 総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)
  - (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法
    - ① 有形固定資産(リース資産を除く)
      - 定率法によっております。
      - ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)および、アウトソーシング事業に関連する建物附属設備、器具・備品については、定額法によっております。

主な耐用年数は次のとおりであります。

|         |       |
|---------|-------|
| 建物及び構築物 | 3～50年 |
| 車両運搬具   | 4～6年  |
| 器具及び備品  | 3～20年 |

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

④ 長期前払費用

均等償却しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額のうち当連結会計年度に対応する額を計上しております。

③ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。これは、当社グループの退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、職能および勤続基準に応じて事業年度ごとに各人別に勤務費用が確定するためであります。

④ 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金制度は、平成19年5月17日開催の取締役会において、平成19年6月28日をもって廃止することを決議したことにより、制度廃止日以降繰入を実施しておりません。従って、当連結会計年度末における役員退職慰労引当金残高は、当該決議以前から就任している役員に対する平成19年6月28日時点における要支給額であります。

⑤ 環境対策引当金

環境対策に伴い発生する支出に備えるため、当連結会計年度末における支出見積額を計上しております。

- ⑥ 事業整理損失引当金  
事業整理に伴い発生する損失に備えるため、当連結会計年度末における損失見積額を計上しております。
  - ⑦ 工事損失引当金  
受注制作のソフトウェア開発のうち、当連結会計年度末において工事損失の発生の可能性が高く、かつ、その金額を合理的に見積ることが可能なものについて、その損失見込額を計上しております。
- (4) その他連結計算書類の作成のための重要な事項
- ① 完成工事高及び完成工事原価の計上基準
    - イ. 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事  
工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）
    - ロ. その他の工事  
工事完成基準
  - ② 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準  
在外子会社の資産および負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益および費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。
  - ③ 消費税等の会計処理  
税抜き方式によっております。なお、控除対象外消費税等については、当連結会計年度の費用として処理しています。

#### (会計方針の変更に関する注記)

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。

#### (連結貸借対照表に関する注記)

有形固定資産の減価償却累計額 4,598,758千円

### (連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当連結会計年度末における発行済株式の総数  
普通株式 14,900,000株
2. 配当に関する事項  
(1) 配当金支払額

| 決議              | 株式の種類 | 配当金の総額    | 1株当たり配当額 | 基準日        | 効力発生日      |
|-----------------|-------|-----------|----------|------------|------------|
| 平成24年5月10日取締役会  | 普通株式  | 111,748千円 | 7.50円    | 平成24年3月31日 | 平成24年6月28日 |
| 平成24年10月29日取締役会 | 普通株式  | 111,748千円 | 7.50円    | 平成24年9月30日 | 平成24年12月4日 |

- (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| 決議予定日          | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額    | 1株当たり配当額 | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------|-------|-------|-----------|----------|------------|------------|
| 平成25年5月10日取締役会 | 普通株式  | 利益剰余金 | 111,748千円 | 7.50円    | 平成25年3月31日 | 平成25年6月27日 |

### (金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項  
(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針であります。デリバティブ取引等の投機的取引は一切行っておりません。

- (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理規定に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、取引先の信用状況を毎年度末及び異常な兆候発見時に把握する体制としております。

投資有価証券である株式は、市場価格変動リスクに晒されておりますが、業務上の関係を有する企業の株式のみであり、定期的に把握された時価が取締役に報告されております。

営業債務である買掛金は、1年以内の支払期日であります。

借入金は主に営業取引に係る資金調達であります。資金調達については、適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持・確保により、流動性リスクを管理しております。

- (3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明  
(信用リスクの集中)

当連結会計年度の連結決算日現在における営業債権のうち、19.4%が特定の大口顧客に対するものであります。

## 2. 金融商品の状況に関する事項

平成25年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるもの及び重要性が乏しいものは、次表には含めておりません（(注)2.参照）。

|               | 連結貸借対照表<br>計上額(千円) | 時 価<br>(千円) | 差 額<br>(千円) |
|---------------|--------------------|-------------|-------------|
| (1) 現金及び預金    | 3,034,329          | 3,034,329   | —           |
| (2) 受取手形及び売掛金 | 5,321,249          | 5,321,249   | —           |
| (3) 投資有価証券    |                    |             |             |
| その他有価証券       | 50,834             | 50,834      | —           |
| 資産計           | 8,406,413          | 8,406,413   | —           |
| (1) 買掛金       | 1,432,853          | 1,432,853   | —           |
| (2) 短期借入金     | 1,906,940          | 1,906,940   | —           |
| 負債計           | 3,339,794          | 3,339,794   | —           |

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

<資産>

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。

なお、有価証券はその他有価証券として保有しており、これに関する連結貸借対照表計上額と取得価額との差額は以下のとおりであります。

|                            | 種類 | 取得価額<br>(千円) | 連結貸借対照表<br>計上額(千円) | 差 額<br>(千円) |
|----------------------------|----|--------------|--------------------|-------------|
| 連結貸借対照表計上額が<br>取得原価を超えるもの  | 株式 | 27,279       | 49,063             | 21,783      |
| 連結貸借対照表計上額が<br>取得原価を超えないもの | 株式 | 1,960        | 1,771              | △189        |
| 合計                         |    | 29,239       | 50,834             | 21,594      |

<負債>

(1) 買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

| 区分    | 連結貸借対照表計上額(千円) |
|-------|----------------|
| 非上場株式 | 42,991         |

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、金融商品の時価情報の「(3) 投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

|           | 1年以内(千円)  |
|-----------|-----------|
| 受取手形及び売掛金 | 5,321,249 |

(賃貸等不動産に関する注記)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記の対象から除いております。

(減損損失に関する注記)

当社グループは、以下の資産について減損損失を計上しました。

(1) 減損損失を認識した主な資産

| 場所     | 用途 | 種類 |
|--------|----|----|
| 山梨県笛吹市 | 遊休 | 土地 |

(2) 減損損失の認識に至った経緯

上記の土地は、市場価額が大幅に下落したため、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

(3) 減損損失の金額

土地 253,000千円

(4) 資産のグルーピングの方法

グルーピングの方法は、事業部門別を基本とし、事業の用に供していない遊休資産については、個別にグルーピングをしております。

(5) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は、不動産鑑定評価基準に基づく鑑定評価額を基にした正味売却価額により評価しております。

(1株当たり情報に関する注記)

- |               |         |
|---------------|---------|
| 1. 1株当たり純資産額  | 798円72銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 26円22銭  |

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

# 貸借対照表

(平成25年3月31日現在)

(単位：千円)

| 資 産 の 部         |                   | 負 債 の 部          |                   |
|-----------------|-------------------|------------------|-------------------|
| 科 目             | 金 額               | 科 目              | 金 額               |
| <b>流動資産</b>     | <b>9,301,983</b>  | <b>流動負債</b>      | <b>5,674,196</b>  |
| 現金及び預金          | 2,543,842         | 買掛金              | 1,599,396         |
| 受取手形            | 35,320            | 短期借入金            | 1,900,000         |
| 売掛金             | 5,177,633         | リース債務            | 109,339           |
| 商品              | 147,607           | 未払金              | 258,894           |
| 仕掛品             | 627,345           | 未払法人税等           | 276,697           |
| 貯蔵品             | 2,377             | 未払消費税等           | 150,606           |
| 前払費用            | 125,877           | 未払費用             | 346,938           |
| 繰延税金資産          | 394,435           | 前受金              | 20,963            |
| その他             | 271,389           | 前受収益             | 665               |
| 貸倒引当金           | △23,845           | 預り金              | 221,620           |
| <b>固定資産</b>     | <b>9,622,002</b>  | 賞与引当金            | 576,409           |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>7,628,143</b>  | 工事損失引当金          | 700               |
| 建物              | 3,195,850         | 事業整理損失引当金        | 209,930           |
| 構築物             | 53,608            | その他              | 2,033             |
| 車両運搬具           | 428               | <b>固定負債</b>      | <b>1,633,015</b>  |
| 工具、器具及び備品       | 515,813           | リース債務            | 105,608           |
| 土地              | 3,861,051         | 退職給付引当金          | 1,188,660         |
| リース資産           | 1,389             | 役員退職慰労引当金        | 313,241           |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>83,696</b>     | 環境対策引当金          | 13,497            |
| ソフトウェア          | 61,916            | 資産除去債務           | 12,007            |
| リース資産           | 3,331             | <b>負債合計</b>      | <b>7,307,211</b>  |
| その他             | 18,448            | <b>純資産の部</b>     |                   |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>1,910,162</b>  | <b>株主資本</b>      | <b>11,598,657</b> |
| 投資有価証券          | 93,826            | 資本金              | 5,500,000         |
| 関係会社株式          | 269,967           | 資本剰余金            | 86,080            |
| 会員権             | 86,400            | 資本準備金            | 86,080            |
| リース投資資産         | 103,321           | <b>利益剰余金</b>     | <b>6,012,685</b>  |
| 破産更生債権等         | 1,624             | 利益準備金            | 393,537           |
| 長期未収入金          | 14,497            | その他利益剰余金         | 5,619,147         |
| 長期前払費用          | 24,603            | 別途積立金            | 4,500,000         |
| 敷金及び保証金         | 603,291           | 繰越利益剰余金          | 1,119,147         |
| 保険積立金           | 271,002           | <b>自己株式</b>      | <b>△107</b>       |
| 繰延税金資産          | 461,889           | 評価・換算差額等         | 18,116            |
| 貸倒引当金           | △20,262           | その他有価証券評価差額金     | 18,116            |
| <b>資産合計</b>     | <b>18,923,986</b> | <b>純資産合計</b>     | <b>11,616,774</b> |
|                 |                   | <b>負債及び純資産合計</b> | <b>18,923,986</b> |

(注) 記載金額は表示単位未満を切り捨てて記載しております。

# 損 益 計 算 書

(自 平成24年 4月 1日  
至 平成25年 3月 31日)

(単位：千円)

| 科 目                   | 金       | 額          |
|-----------------------|---------|------------|
| 売 上 高                 |         | 25,092,659 |
| 売 上 原 価               |         | 21,134,945 |
| 売 上 総 利 益             |         | 3,957,713  |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費   |         | 2,909,788  |
| 営 業 利 益               |         | 1,047,925  |
| 営 業 外 収 益             |         |            |
| 受 取 利 息               | 17      |            |
| 受 取 配 当 金             | 64,543  |            |
| そ の 他                 | 65,477  | 130,038    |
| 営 業 外 費 用             |         |            |
| 支 払 利 息               | 19,774  |            |
| そ の 他                 | 3,021   | 22,795     |
| 経 常 利 益               |         | 1,155,167  |
| 特 別 損 失               |         |            |
| 有 形 固 定 資 産 除 却 損     | 606     |            |
| 特 別 退 職 金             | 76,045  |            |
| 減 損 損 失               | 253,000 | 329,651    |
| 税 引 前 当 期 純 利 益       |         | 825,516    |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税 | 407,268 |            |
| 法 人 税 等 調 整 額         | 7,927   | 415,195    |
| 当 期 純 利 益             |         | 410,321    |

(注) 記載金額は表示単位未満を切り捨てて記載しております。

## 株主資本等変動計算書

(自 平成24年 4月 1日  
至 平成25年 3月 31日)

(単位：千円)

|             | 株 主 資 本   |            |            |         |           |           |           |      |            |
|-------------|-----------|------------|------------|---------|-----------|-----------|-----------|------|------------|
|             | 資本金       | 資本剰余金      |            | 利益剰余金   |           |           |           | 自己株式 | 株主資本合計     |
|             |           | 資本準備金      | 資本剰余金合計    | 利益準備金   | その他利益剰余金  |           | 利益剰余金合計   |      |            |
|             |           |            |            |         | 別途積立金     | 繰越利益剰余金   |           |      |            |
| 当期首残高       | 2,538,300 | 3,047,780  | 3,047,780  | 371,188 | 4,500,000 | 954,673   | 5,825,861 | △107 | 11,411,833 |
| 当期変動額       |           |            |            |         |           |           |           |      |            |
| 資本金への振替     | 2,961,700 | △2,961,700 | △2,961,700 |         |           |           |           |      | —          |
| 剰余金の配当      |           |            |            |         |           | △223,497  | △223,497  |      | △223,497   |
| 剰余金の配当に伴う積立 |           |            |            | 22,349  |           | △22,349   | —         |      | —          |
| 当期純利益       |           |            |            |         |           | 410,321   | 410,321   |      | 410,321    |
| 当期変動額合計     | 2,961,700 | △2,961,700 | △2,961,700 | 22,349  | —         | 164,474   | 186,823   | —    | 186,823    |
| 当期末残高       | 5,500,000 | 86,080     | 86,080     | 393,537 | 4,500,000 | 1,119,147 | 6,012,685 | △107 | 11,598,657 |

(単位：千円)

|                     | 評価・換算差額等     |            | 純資産合計      |
|---------------------|--------------|------------|------------|
|                     | その他有価証券評価差額金 | 評価・換算差額等合計 |            |
| 当期首残高               | △32          | △32        | 11,411,801 |
| 当期変動額               |              |            |            |
| 剰余金の配当              |              |            | △223,497   |
| 当期純利益               |              |            | 410,321    |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 18,149       | 18,149     | 18,149     |
| 当期変動額合計             | 18,149       | 18,149     | 204,973    |
| 当期末残高               | 18,116       | 18,116     | 11,616,774 |

(注) 記載金額は表示単位未満を切り捨てて記載しております。

## 個別注記表

### (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

#### 1. 資産の評価基準および評価方法

##### (1) 有価証券

###### ① 子会社株式

移動平均法による原価法

###### ② その他有価証券

###### イ. 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

###### ロ. 時価のないもの

移動平均法による原価法

##### (2) たな卸資産

###### ① 商品及び仕掛品

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

###### ② 貯蔵品

総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）および、アウトソーシング事業に関連する建物附属設備、器具・備品については、定額法によっております。

主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～50年

車両運搬具 4～6年

器具及び備品 3～20年

##### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(4) 長期前払費用

均等償却しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額のうち当事業年度に対応する額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、職能および勤続基準に応じて事業年度ごとに各人別に勤務費用が確定するためであります。

(4) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金制度は、平成19年5月17日開催の取締役会において、平成19年6月28日をもって廃止することを決議したことにより、制度廃止日以降繰入を実施しておりません。従って、当期末における役員退職慰労引当金残高は、当該決議以前から就任している役員に対する平成19年6月28日時点における要支給額であります。

(5) 環境対策引当金

環境対策に伴い発生する支出に備えるため、当事業年度末における支出見積額を計上しております。

(6) 事業整理損失引当金

事業整理に伴い発生する損失に備えるため、当事業年度末における損失見積額を計上しております。

(7) 工事損失引当金

受注制作のソフトウェア開発のうち、当事業年度末において工事損失の発生の可能性が高く、かつ、その金額を合理的に見積もることが可能なものについて、その損失見込額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準
  - 完成工事高及び完成工事原価の計上基準
    - (1) 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事  
工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）
    - (2) その他の工事  
工事完成基準
5. その他計算書類の作成のための重要な事項
  - 消費税等の会計処理
    - 税抜き方式によっております。なお、控除対象外消費税等については、当事業年度の費用として処理しております。

#### (会計方針の変更に関する注記)

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響は軽微であります。

#### (貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額 4,594,716千円
2. 保証債務
  - 他の会社の金融機関からの借入金に対する債務保証
  - 京石刻恩信息技术(北京)有限公司 7,796千円
3. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務
  - 短期金銭債権 59,522千円
  - 短期金銭債務 223,013千円

#### (損益計算書に関する注記)

1. 関係会社との営業取引による取引高
  - 売上高 228,306千円
  - 仕入高 1,166,775千円
  - 業務委託費他 131,911千円
2. 関係会社との営業取引以外の取引による取引高
  - 受取配当金、雑収入 74,829千円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

当事業年度末における自己株式の種類および株式数

普通株式

192株

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳

(1) 流動の部

繰延税金資産

|           |           |
|-----------|-----------|
| 売上原価      | 5,279千円   |
| 貸倒引当金     | 11,354千円  |
| 賞与引当金     | 251,260千円 |
| 未払事業税     | 39,612千円  |
| 工事損失引当金   | 266千円     |
| 事業整理損失引当金 | 79,794千円  |
| その他       | 6,867千円   |

繰延税金資産合計 394,435千円

(2) 固定の部

繰延税金資産

|           |           |
|-----------|-----------|
| 貸倒引当金     | 4,638千円   |
| 減損損失      | 475,514千円 |
| 投資有価証券評価損 | 30,974千円  |
| 退職給付引当金   | 424,787千円 |
| 役員退職慰労引当金 | 111,639千円 |
| その他       | 12,202千円  |

繰延税金資産小計 1,059,755千円

評価性引当額 △593,522千円

繰延税金資産合計 466,233千円

繰延税金負債との相殺 △4,343千円

繰延税金資産の純額 461,889千円

繰延税金負債

その他有価証券評価差額金 3,478千円

資産除去債務に対応する除去費用 865千円

繰延税金負債合計 4,343千円

繰延税金資産との相殺 △4,343千円

繰延税金負債の純額 一千円

(リースにより使用する固定資産に関する注記)

貸借対照表に計上した固定資産のほか、工具、器具及び備品およびソフトウェア等の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。

(関連当事者との取引に関する注記)

関連当事者との取引

計算書類提出会社と関連当事者との取引

1. 計算書類提出会社の役員および主要株主（個人の場合に限る。）等

| 種類                           | 会社等の名称又は氏名 | 所在地    | 資本金又は出資金(千円) | 事業の内容又は職業 | 議決権の所有または被所有割合(%) | 関連当事者との関係            | 取引の内容  | 取引金額(千円) | 科目      | 期末残高(千円)          |
|------------------------------|------------|--------|--------------|-----------|-------------------|----------------------|--------|----------|---------|-------------------|
| 役員が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社 | 株式会社ナカヤ    | 東京都渋谷区 | 30,000       | 不動産賃貸業    | なし                | 建物の賃借<br>役員の兼任<br>2名 | 賃借料の支払 | 812,304  | 保証金前払費用 | 558,077<br>71,076 |

2. 子会社

| 種類  | 会社等の名称又は氏名      | 所在地    | 資本金又は出資金(千円) | 事業の内容又は職業              | 議決権の所有または被所有割合(%) | 関連当事者との関係    | 取引の内容   | 取引金額(千円)  | 科目  | 期末残高(千円) |
|-----|-----------------|--------|--------------|------------------------|-------------------|--------------|---------|-----------|-----|----------|
| 子会社 | 日本テクノロジーエイブ株式会社 | 東京都渋谷区 | 200,000      | ITソリューション、プロダクトソリューション | (所有)<br>100.0     | 当社開発業務の一部の委託 | 開発業務の委託 | 1,112,629 | 買掛金 | 196,534  |

- (注) 1. 「取引金額」には消費税等は含まず、「期末残高」には消費税等を含めて表示しております。
2. 株式会社ナカヤは、当社役員多田修人が議決権の100%を直接保有しております。
3. 取引条件および取引条件の決定方針等は以下のとおりであります。
- (1) 賃借料は、近隣の取引情勢に基づいて決定しております。
- (2) 開発業務の委託は、当社と関連を有しない他の事業者と同様の条件によっております。

(減損損失に関する注記)

当社は、以下の資産について減損損失を計上しました。

(1) 減損損失を認識した主な資産

| 場所     | 用途 | 種類 |
|--------|----|----|
| 山梨県笛吹市 | 遊休 | 土地 |

(2) 減損損失の認識に至った経緯

上記の土地は、市場価額が大幅に下落したため、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

(3) 減損損失の金額

土地

253,000千円

(4) 資産のグルーピングの方法

グルーピングの方法は、事業部門別を基本とし、事業の用に供していない遊休資産については、個別にグルーピングをしております。

(5) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は、不動産鑑定評価基準に基づく鑑定評価額を基にした正味売却価額により評価しております。

(1 株当たり情報に関する注記)

|               |         |
|---------------|---------|
| 1. 1株当たり純資産額  | 779円66銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 27円54銭  |

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

# 連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書 謄本

## 独立監査人の監査報告書

平成25年5月9日

日本システムウェア株式会社  
取締役会 御中

明 和 監 査 法 人

代表社員 公認会計士 西川 一 男 ㊞  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 川 崎 浩 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、日本システムウェア株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本システムウェア株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 会計監査人の監査報告書 謄本

## 独立監査人の監査報告書

平成25年5月9日

日本システムウエア株式会社  
取締役会 御中

明 和 監 査 法 人

代表社員 公認会計士 西川 一 男 ㊞  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 川 崎 浩 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、日本システムウエア株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第47期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 監査役会の監査報告書 謄本

## 監査報告書

当監査役会は平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第47期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下の通り報告いたします。

### 1. 監査役および監査役会の監査の方法およびその内容

監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況および結果について報告を受けるほか、取締役等および会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役および使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類を閲覧し、本社および主要な事業所において業務および財産の状況を調査いたしました。また、事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項および第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役および使用人等からその構築および運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。子会社については、子会社の取締役および監査役等と意思疎通および情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係わる事業報告およびその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視および検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われていることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日、企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係わる計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書および個別注記表）およびその附属明細書ならびに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書および連結注記表）について検討いたしました。

### 2. 監査の結果

#### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告およびその附属明細書は、法令および定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

#### (2) 計算書類およびその附属明細書の監査結果

会計監査人 明和監査法人の監査の方法および結果は相当であると認めます。

#### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人 明和監査法人の監査の方法および結果は相当であると認めます。

平成25年5月9日

日本システムウェア株式会社 監査役会

常勤監査役 望 月 武 ◎  
社外監査役 木 村 武 ◎  
社外監査役 熊 谷 信太郎 ◎

以 上

## 株主総会参考書類

### 議案および参考事項

#### 第1号議案 定款一部変更の件

##### 1. 提案の理由

- (1) 経営基盤の一層の強化を図るため、取締役役に役付取締役として、新たに取締役相談役を追加するものであります。
- (2) その他、一部文言の整備等、所要の変更を行なうものであります。

##### 2. 変更の内容

変更の内容は、次のとおりであります。

(下線は変更内容を示しております。)

| 現 行 定 款                                                                                                                                            | 変 更 案                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(株主総会の招集権者および議長)</p> <p>第16条 株主総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会長がこれを招集し、議長となる。</p> <p>2 取締役会長に事故あるときは、取締役会においてあらかじめ定めた順序に従い、他の取締役が株主総会を招集し、議長となる。</p>  | <p>(株主総会の招集権者および議長)</p> <p>第16条 (現行どおり)</p> <p>2 取締役会長に欠員または事故あるときは、取締役会においてあらかじめ定めた順序に従い、他の取締役が株主総会を招集し、議長となる。</p>                |
| <p>(代表取締役および役付取締役)</p> <p>第24条 取締役会は、その決議によって代表取締役を選定する。</p> <p>2 取締役会は、その決議によって取締役会長、取締役社長各1名、取締役副社長、専務取締役および常務取締役各若干名を定めることができる。</p>             | <p>(代表取締役および役付取締役)</p> <p>第24条 (現行どおり)</p> <p>2 取締役会は、その決議によって取締役会長、取締役社長各1名、取締役副社長、専務取締役、<u>常務取締役および取締役相談役</u>各若干名を定めることができる。</p> |
| <p>(取締役会の招集権者および議長)</p> <p>第25条 取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会長がこれを招集し、議長となる。</p> <p>2 取締役会長に事故があるときは、取締役会においてあらかじめ定めた順序に従い、他の取締役が取締役会を招集し、議長となる。</p> | <p>(取締役会の招集権者および議長)</p> <p>第25条 (現行どおり)</p> <p>2 取締役会長に欠員または事故あるときは、取締役会においてあらかじめ定めた順序に従い、他の取締役が取締役会を招集し、議長となる。</p>                |

## 第2号議案 取締役8名選任の件

本総会終結の時をもって取締役8名全員の任期が満了となりますので、取締役8名の選任をお願いいたしますと存じます。

取締役候補者は次のとおりであります。

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                          | 略歴、地位、担当<br>および重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                            | 所有する<br>当社の<br>株式数 |
|-------|---------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 1     | た だ なお と<br>多 田 修 人<br>(昭和9年2月1日生)    | 昭和41年8月 (株)事務計算センター(現当社)設立<br>代表取締役社長<br>平成17年4月 当社代表取締役会長<br>平成19年4月 当社代表取締役会長兼社長<br>平成20年4月 当社取締役会長<br>平成21年4月 当社代表取締役会長兼社長<br>平成22年4月 当社代表取締役会長<br>平成25年4月 当社取締役会長(現任)<br><br>[重要な兼職の状況]<br>(株)ナカヤ 代表取締役社長                                      | 株<br>2,279,900     |
| 2     | た だ しやう じ<br>多 田 尚 二<br>(昭和44年5月14日生) | 平成14年9月 エヌエスダブリュ販売(株)<br>代表取締役社長<br>平成16年6月 当社取締役<br>平成18年6月 当社常務取締役<br>平成19年4月 当社取締役<br>平成20年4月 当社代表取締役社長<br>平成21年4月 当社取締役執行役員副社長<br>平成25年4月 当社代表取締役執行役員社長(現任)<br><br>[重要な兼職の状況]<br>エヌエスダブリュ販売(株) 取締役会長<br>(株)ナカヤ 専務取締役<br>(株)タダ・コーポレーション 代表取締役社長 | 株<br>310,920       |
| 3     | くわ ばら きみ お<br>桑 原 公 生<br>(昭和25年8月3日生) | 昭和49年4月 (株)三菱銀行(現(株)三菱東京UFJ銀行) 入行<br>平成15年1月 当社出向<br>平成15年6月 当社執行役員<br>平成16年6月 当社執行役員常務<br>平成19年6月 当社常務取締役<br>平成20年4月 当社専務取締役<br>平成21年4月 当社取締役執行役員専務<br>平成25年4月 当社代表取締役執行役員専務(現任)                                                                  | 株<br>6,100         |

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                         | 略歴、地位、担当<br>および重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                         | 所有する<br>当社の<br>株式数 |
|-------|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 4     | あおき ただし<br>青木 正<br>(昭和22年11月22日生)    | 昭和41年8月 ㈱事務計算センター(現当社) 監査役<br>昭和53年4月 当社取締役<br>平成4年6月 当社常務取締役<br>平成12年6月 当社執行役員専務<br>平成14年4月 日本テクノウェイブ(株) 代表取締役社長<br>平成21年4月 当社執行役員副社長<br>平成21年6月 当社取締役執行役員副社長<br>平成22年4月 当社代表取締役執行役員社長<br>平成25年4月 当社取締役相談役(現任) | 株<br>148,700       |
| 5     | おおた すずむ<br>大田 亨<br>(昭和31年2月27日生)     | 昭和53年3月 ㈱事務計算センター(現当社) 入社<br>平成19年4月 当社執行役員<br>平成20年4月 当社執行役員常務<br>平成21年6月 当社取締役執行役員常務(現任)<br><br>[重要な兼職の状況]<br>京石刻恩信息技术(北京)有限公司 董事長                                                                            | 株<br>2,000         |
| 6     | いらい ごう なおゆき<br>飯郷直行<br>(昭和30年6月23日生) | 昭和53年4月 日本電気(株)入社<br>平成16年4月 同社第一システム事業本部医療システム開発事業部統括マネージャー<br>平成21年10月 同社公共・医療ソリューション事業本部医療ソリューション事業部長代理<br>平成22年4月 当社執行役員<br>平成23年4月 当社執行役員常務<br>平成24年6月 当社取締役執行役員常務(現任)                                     | 株<br>600           |
| 7     | こやの みき お<br>小谷野 幹雄<br>(昭和36年6月20日生)  | 昭和60年4月 大和証券(株)入社<br>昭和63年8月 公認会計士登録<br>平成8年9月 小谷野公認会計士事務所代表(現任)<br>平成15年6月 当社監査役<br>平成20年6月 当社取締役(現任)<br><br>[重要な兼職の状況]<br>小谷野公認会計士事務所 代表<br>ゼビオ(株) 社外監査役<br>㈱ヴィクトリア 社外監査役<br>積水ハウス・SI投資法人 監督役員                | 株<br>-             |





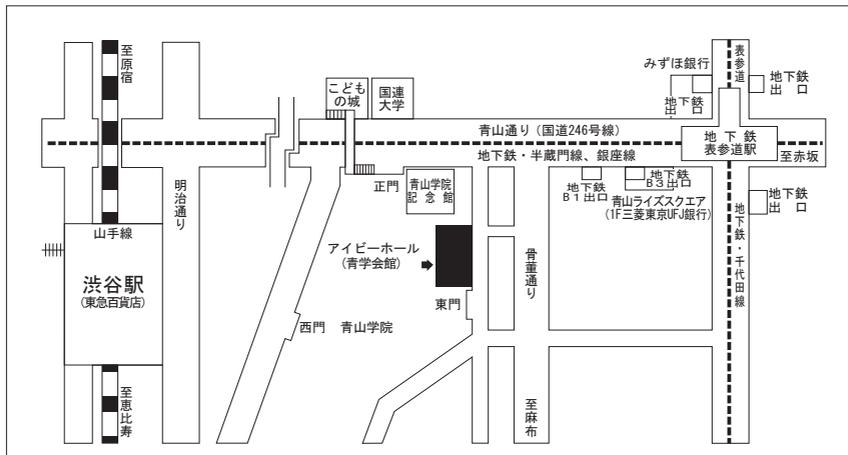


# 株主総会会場ご案内図

会 場：アイビーホール（青学会館）

地下2階 サフランの間

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷4丁目4番25号



## 〔交通〕

地下鉄 銀座線、千代田線または半蔵門線

「表参道」駅(B1、B3出口)より徒歩約5分